

ND2028 開催に関するご相談

木村 敦（企画担当、JAEA）

2022/9/9

皆様ご存知の通り、6年後に開催される ND2028 はアジアが開催の担当となっており、ND2019 が中国北京、ND2010 が韓国済州島での開催であったことから ND2028 は日本での開催となる可能性が高い。そのため、どのように進めていくのか議論を進めたい。

なお、ND は OECD/NEA が主導する会議のため、OECD/NEA の常設部会の一つである Nuclear Science Committee (NSC) 及び NSC 傘下のワーキング・パーティで核データ関係の活動を行っている WPEC での承認が必要となる。WPEC での承認後 NSC に上げる形となるため、毎年 5 月に開催される WPEC が Key Date となる。以下に予想されるスケジュール（誤りがあればご指摘ください。）を示すので、まずは代表者・機関の決定に向けて議論を進めていきたい。

予想されるタイムスケジュール

（OECD/NEA/WPEC での ND2022 での動きを参考に）

- 36th WPEC （2023 年 5 月）
中国及び韓国の関係者に対して ND2028 を日本で開催する事の確認？
これまでに日本の代表者を決めておきたい。
（どんなに遅くとも次の 2024 年の 37 回 WPEC までには必要）
- 37th WPEC （2024 年 5 月）
ND2028 を日本で開催する事の正式決定
（WPEC の議事録では 2018 年に ND2022 を米国で開催することが確認している）
- 38th WPEC （2025 年 5 月）→OECD/NEA NSC
WPEC とそれを受けて開かれる上部組織の NSC にて
ND2028 を日本で開催する事の正式決定
（開催場所時期はここまでは決まってないといけない）
（WPEC の議事録では ND2022 の開催場所などを了承している）
- ND2025 で外部にアナウンス
以後、各委員会を編成し会議に向けて作業を進めていく。

前回の日本開催（ND2001）の場合（資料を残していただいております。）、

主催 日本原子力研究所（原研）

共催 OECD NEA 原子力学会

会場・日時： エポカルつくば 2001/10/7-12

参加者：一般 315名 学生 37名

収支 大体 3000 万円くらいで開催

収入：	原研予算	605 万円	⇒会場費・委員会運営費等に充当
	参加費	1550 万円	(一般 45,000/50,000、 学生 15,000/20,000)
	バンケット費	122 万円	(5000*244)
	賛助金	798 万円	(サイクル機構 300 万 、 茨城県 148 万 原子力学会、電機工業会、RIST 各 100 万 電中研 50 万)
支出：	会場費	465 万円	(原研予算にて支出・会場備品費 147 万含む)
	委員会関連費用	140 万円	(原研予算にて支出)
	業務委託費	706 万円	(看板、名札、バックなどを含む)
	社交行事費	677 万円	(ウェルカム 68 万、レセプション 231 万、 バンケット 242 万、コーヒープレイク 102 万、 コンパニオン 34 万)
	印刷費	173 万円	(パンフレット 33 万、要旨集 140 万円)
	報文集関連	705 万円	(印刷 584 万、送料 121 万円)
	その他	189 万円	(招待旅費、事務機器借料など)

会場は原研がお金を出したこともあり、原研内で決定した模様。

近接分野で最近国内にて開催されたものとしては以下のものがあげられます。

● **PHYSOR 2014**

主催：京大・JAEA （参加費と寄付金で開催）

会場：京都都ホテル

● **ICNC 2023**

主催：JAEA、共催：炉物理部会、NEA

会場：仙台国際センター

Chair：中島先生（京大）、Co-chair:遠藤先生（名大）

今回ご相談したいのは以下の 3 点です。

- 日本で **ND2028** を開催する事への合意
- 対外的な主催者や代表者の決め方
- 実務を行う組織（委員会？）をどう整備するか、誰を責任者に？どこの下に置くか